

公益財団法人 全国商業高等学校協会 主催
文部科学省 後援

簿記実務検定試験 模擬試験問題

第 2 級

第 3 回

(復習問題)

難 易 度		
易	普通	難
○		

解答上の注意

- 1 解答にあたえられた時間は90分です。試験開始後の途中退室はできません。
- 2 問題は全部で6問あります。
- 3 問題用紙の表紙に受験番号を記入しなさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

受験番号

1

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	売掛金	電子記録債権
有価証券	受取商品券	買掛金	電子記録債務
売上	受取手数料	雑益	仕入
手形売却損	雑損	現金過不足	

- a. 群馬商店に対する買掛金の支払いとして、得意先金沢商店に対する電子記録債権 ¥900,000 を譲渡した。
- b. 売買目的で茨城株式会社の株式 200 株を / 株につき ¥7,000 で買い入れ、代金は買入手数料 ¥31,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- c. 広島商店は、商品券を精算するため、商品の販売のさいに受け取った当店が保有する他店発行の商品券 ¥240,000 を同額の現金と交換した。

2 次の各問いに答えなさい。

- (1) 鹿児島商店（個人企業 決算年／回 2月3日）における、下記の勘定の（ a ）と（ b ）に入る金額と、（ c ）に入る勘定科目を記入しなさい。

ただし、備品および建物の減価償却は次のとおりにおこなう。

i 備品 取得原価 ￥ 640,000 償却率 25% 定率法による。

ii 建物 取得原価 ￥2,700,000 残存価額 零(0) 耐用年数30年 定額法による。

なお、備品は期首にすべて売却し、代金 ￥330,000 を全額、現金で受け取っている。

備 品	
1/ 1 前期繰越	640,000
1/ 1 諸 口	640,000

備品減価償却累計額	
1/ 1 備 品	280,000
1/ 1 前期繰越	280,000

建 物	
1/ 1 前期繰越	2,700,000
12/31 次期繰越	2,700,000

建物減価償却累計額	
12/31 () ()	1/ 1 前期繰越 720,000
12/31 減価償却費 (a)	

固定資産売却 ()	
1/ 1 備 品 (b)	12/31 (c) ()

()	()
-----	-----

- (2) 次の文について、下記の各問いに答えなさい。

売買を目的として保有する株式や債券などの有価証券は、証券取引所の売買時点における時価を基準にして売買される。そこで、決算時に所有する有価証券の本来の価値を帳簿に示すため、帳簿価額と時価が異なるときは、その帳簿価額を時価に修正する必要がある。これを、有価証券の という。

- a. 下線部 を英語表記にした場合に当てはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. Securities 2. Transactions

- b. に当てはまる語を選び、その番号を記入しなさい。

1. 振り替え 2. 評価替え

- (3) 支店会計が独立している岐阜商店の下記の取引について、仕訳を示しなさい。ただし、岐阜商店は本店集中計算制度を採用している。なお、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	売	掛	金	買	掛	金	売	上
仕	入	本	店		三	重	支	店	愛
									知
									支
									店

- a. 本店は、三重支店に現金 ¥3,600,000 を送付した。(本店の仕訳)
- b. 本店から愛知支店に商品 ¥1,300,000 (原価) を発送し、愛知支店はこれを受け取った。(愛知支店の仕訳)

- 3
- 秋田商店の下記の伝票を集計し、ノ月ノ7日の仕訳集計表の(ア)から(ウ)に入る金額を計算しなさい。また、総勘定元帳の売掛金勘定に転記しなさい。
- ただし、i 次の取引について、必要な伝票に記入したうえで集計すること。
- ii 総勘定元帳の記入は、日付・金額を示せばよい。

取引

- ノ月ノ7日 山形商店から商品 ¥420,000 を仕入れ、代金は現金で支払った。
- ㄥ日 広告料 ¥32,000 を小切手を振り出して支払った。

入金伝票	
売掛金	241,000
当座預金	300,000
売上	718,000
()	()

出金伝票	
支払家賃	67,000
普通預金	790,000
未払金	60,000
()	()

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
所得税預り金	240,000	普通預金	240,000
当座預金	396,000	売上	396,000
仕入	168,000	買掛金	168,000
当座預金	370,000	売上	370,000
売掛金	72,000	売上	72,000
売掛金	444,000	売上	444,000
通信費	23,000	普通預金	23,000
買掛金	6,000	仕入	6,000
()	()	()	()

仕訳集計表
令和〇年ノ月ノ7日

借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方
		現金		
		当座預金		(ア)
		普通預金		
		売掛金		
		買掛金		
		未払金		
		所得税預り金		
		売上		(イ)
(ウ)		仕入		
		広告料		
		通信費		
		支払家賃		

4

千葉商店の下記の取引について、

- (1) 総勘定元帳に記入しなさい。
- (2) 補助簿である当座預金出納帳、受取手形記入帳、売掛金元帳に記入しなさい。
- ただし、
- i 総勘定元帳の記入は、日付と金額を示せばよい。
 - ii 当座預金出納帳・売掛金元帳は月末に締め切るものとする。
 - iii 消費税については考えないものとする。

取引

／月 々日 神奈川商店から商品を仕入れ、下記の納品書を受け取った。なお、代金は掛けとした。

<u>納 品 書</u>					
<p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">千葉商店 御中</p> <p style="margin-top: 20px;">下記のとおり納品致しました。</p> <p style="margin-top: 10px;"><u>合計金額</u> 93,800 円</p>			<p>納品書番号：No. XXXXXX</p> <p>納 品 日：令和〇年1月4日</p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <div style="display: inline-block; text-align: center;"> 神奈川商店 </div> </p> <p>神奈川県横浜市中区日本大通1 045-XXX-XXXX</p>		
詳 細	数 量	単 位	単 価	金 額	
A品	200	個	¥ 280	¥ 56,000	
B品	70	個	¥ 540	¥ 37,800	
以下余白					

6日 山梨商店に次の商品を売り渡し、代金の一部を同店振り出しの約束手形¥61,000（手形番号 #3, 振出日／月6日、満期日2月6日、支払場所：南銀行本店）で受け取り、残額は掛けとした。

A 品 240 個 @ ¥360

B 品 40 〃 〃 ¥680

10日 埼玉商店から次の商品を仕入れ、代金は小切手#4を振り出して支払った。

A 品 160 個 @ ¥320

13日 山梨商店に対する売掛金¥30,600が、当店の当座預金に振り込まれたとの連絡を取引銀行から受けた。

15日 山梨商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 60 個 @ ¥400

17日 神奈川商店に買掛金の一部¥85,000について、小切手#5を振り出して支払った。

20日 神奈川商店から次の商品を仕入れ、代金は小切手#6を振り出して支払った。

B品 50個 @ ¥550

24日 山梨商店から売掛金の一部について、次の同店振り出しの約束手形を受け取った。

No. 8 約束手形	
千葉県千葉市中央区市場町 1-1	
千葉商店 千葉一郎 殿	
収 入 印 紙	金額 ¥13,900※
	支払期日 令和〇年3月24日
支払地 山梨県甲府市	
支払場所 南銀行本店	
上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします	
令和〇年1月24日	
振出地 山梨県甲府市丸の内1-6-1	
住 所	
振出人 山梨商店 山梨太郎	
	

5

富山商店（個人企業 決算年 / 回 / 2 月 3 / 日）の残高試算表と付記事項および決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 貸借対照表を完成しなさい。
- (2) 損益計算書に記載する貸倒引当金繰入の金額を求めなさい。

残 高 試 算 表			
令和〇年 / 2 月 3 / 日			
(単位：円)			
借 方	元 丁	勘 定 科 目	貸 方
968,000	1	現 金	
	2	現 金 過 不 足	7,000
2,643,000	3	当 座 預 金	
1,500,000	4	受 取 手 形	
2,400,000	5	売 掛 金	
	6	貸 倒 引 当 金	12,000
2,092,000	7	有 価 証 券	
358,000	8	繰 越 商 品	
1,800,000	9	建 物	
	10	建物減価償却累計額	792,000
2,600,000	11	土 地	
	12	支 払 手 形	1,196,000
	13	買 掛 金	1,464,000
	14	営業外支払手形	268,000
	15	資 本 金	9,800,000
	16	売 上	12,728,000
	17	受 取 地 代	552,000
9,217,000	18	仕 入	
2,551,000	19	給 料	
198,000	20	保 険 料	
114,000	21	租 税 公 課	
251,000	22	通 信 費	
127,000	23	支 払 利 息	
26,819,000			26,819,000

付 記 事 項

かねて受け取っていた石川商店振り出しの約束手形 ¥200,000 を、福井商店に対する買掛金の決済のために裏書きして支払ったが、この記帳をしていなかった。当該手形は決算日において決済されていない。

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥378,000
- b. 貸 倒 見 積 高 受取手形と売掛金の期末残高に対し、それぞれ / % と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 建物減価償却高 定額法による。ただし、残存価額は零 (0) 耐用年数は25年である。
- d. 有価証券評価高 有価証券は、売買目的で保有している次の株式であり、時価によって評価する。
新潟商事株式会社 240 株 時価 / 株 ¥8,400
- e. 郵便切手未使用高 未使用分 ¥32,000 を次期に繰り延べる。
- f. 地 代 前 受 高 受取地代のうち ¥432,000 は、本年8月 / 日からの / 年分を受け取ったものであり、前受高を次期に繰り延べる。
- g. 現 金 過 不 足 決算日において現金過不足の残高は原因が判明しなかった。よって、適当な勘定へ振り替える。

6

下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	当 座 預 金	仮 払 法 人 税 等	未 払 法 人 税 等
資 本 金		利 益 準 備 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金
株 式 交 付 費		創 立 費	法 人 税 等	損 益

- a. 長崎商事株式会社は、法人税・住民税および事業税の確定申告をおこない、決算で計上した法人税等 ¥704,000 から中間納付のさいに納付した ¥280,000 を差し引いた額を現金で納付した。
- b. 熊本商事株式会社は、設立にさいし、株式 700 株を / 株につき ¥11,000 で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。なお、設立に要した諸費用 ¥190,000 は小切手を振り出して支払った。
- c. 和歌山物産株式会社は、決算の結果、当期純利益 ¥4,140,000 を計上した。

